

カタール国におけるモラル教育やマナーを取り入れた実践

前ドーハ日本人学校 教諭

愛知県知多市立八幡中学校 教諭 橋本良太

キーワード：在外教育施設、ドーハ、モラル教育、道徳、現地理解

1. はじめに

現在カタール国では、石油、天然ガスをはじめ、日本の企業を中心となり事業を進めている産業が多くある。空港建設や現在プロジェクトを進めている地下鉄事業もその一つである。2022年サッカーワールドカップカタール大会開催に向けてインフラ整備を多くの日本企業が支えていることが伺える。

また、カタールの全人口の87%が外国人労働者で構成されており、多種多様な人種や考え方に普段から触れることができる。その中で、約1000名弱の日本人が滞在している。親日家が多く、スーパーのレジやレストランのスタッフに「ありがとうございます」と日本語で話しかけられることがよくある。さらに、カタール国籍保持者の95%がイスラム教徒であり、国の法律も一般法と並び、シャリーア（イスラム法）が併用されている。ドーハ日本人学校もそれらの法律にのっとり、学校運営を行っている。（数字は全て2018年1月現在）

2. カタール国ドーハ日本人学校について

首都ドーハの西部に位置し、周辺にはカタール現地校、インターナショナルスクールをはじめエデュケーションシティなど教育施設が集まっている。大型モール、スーパーマーケット、動物園、博物館、美術館なども近くにあり、現地理解学習に適した場所である。児童生徒数は、19名、派遣教員8名で小学部、中学部が同じ校舎内で生活し、日常的に異学年交流が行える環境がある。また、カタールの法律により、アラビアについての学習を週に1時間行っている。そこでのカリキュラムではアラビア語、カタールの歴史についての内容が組み込まれている。さらに、日本の伝統文化の一つである和太鼓を全校で取り組んでいる。今では、ドーハ日本人学校の特色の一つとなる教育活動となった。（数字は全て2018年3月現在）



和太鼓演奏

3. 現地モラル教材を基に道徳の教材化

(1) 「クルアーン」と現地のモラル教育

イスラム教にとってすべてのムスリムの信仰と実践の基礎となる教典である。神を崇拝する教えの他にも、人間を大事にすることの教えが述べられている。それは人間に関するあらゆる物事を扱っている。公正な社会、適切な人間の行動、平等な経済制度に関する指針と詳しい教えを与えている。社会の平和、国際平和を保つための教え、そして文明の発達、経済問題、国の政治など詳しく述べられている。

ムスリムが大半を占めるカタールでは、「クルアーン」を基にしたモラル教育の教材を活用している。そこでは、身だしなみについて、人とのかわり合い方、食事のマナー、生命尊重などについての内容が含まれている。モラルだけでなく、生活全般に関わることを学習している。

(2) 授業実践

小学部1（1人）・2（1人）年生で実践を行った。物語ではドッジボールの苦手な児童に対して得意な児童があだ名で呼んでしまい、喧嘩に発展してしまうところを中心に考えさせた。「けんかをしないためにはどうすればよかったのか」という発問に対し、個別にワークシートに書かせ、ロールプレイで発表させた。次に、2人でより良い解決策を話しあわせた。授業の最後には、「人のあだ名で呼んではいけない」とう内容のクルアーンの一節を紹介し、アラビアの世界でも同じ考えであることを伝えた。



現地校モラル教育教材

4. 成果と課題

身近な話題に落とし込み教材化したことで、児童には理解しやすい物語にすることができた。授業後の感想で「つぎは、がんばろうとこえをかける」「へんななまえでよんではいけない」という意見が出た。「人との関わり合いに関すること」について国や文化が違っていても温かい心で接し、親切にすることが大切なことに気づかせることができた。

5. おわりに

3年間を通し、モラル教育に焦点を当て調査、研究、実践を行ってきた。海外での3年間を通し感じたことは、国際化が進む世界で必要なことは、アイデンティティの確立ということだ。幼いころから、海外で暮らす子どもにとっては、自分が日本人であるという意識は低い。そのため、その土地の文化やルールに沿った考え方が身に付いていく。その国の文化を正しく教育され、受け入れていくなら良いが、見ただけ、聞いただけの偏った見方で取り入れていってしまうと本当に正しい行いが見えなくなってきてしまうと考えられる。

それを防ぐためには、まず、一つの基本となる文化や考え方を身に付けることが大切である。軸となる考え方を持つことで他の文化や考え方に対して、自分の意見を持つことができ、受け入れることができるようになると考える。その一端を担うのが日本人学校の役割であると痛感した。日本では、生活する中で、日本の文化や考え方を肌で感じ、学校以外でも、地域の方々や、大勢の友達との関わり合いで正しい行動を学ぶことができる。しかし、海外だと学校を出てしまうと、日本的な考え方をする場面に出くわすことが少なくなってしまう。道徳の授業を通し日本人学校で学んだことを校外でも活かせるように繋げていくことが日本以上に大切であることを学んだ。

これらの経験を活かし、帰国後は多様な文化や考えに対応できる児童生徒の育成に努めていきたい。